

# びわこ学園だより

発行責任者 理事長 山崎 正策  
編集責任者 法人事務局 田處 浩吉  
印刷 近江印刷株式会社

新年のご挨拶 (びわこ学園理事長 山崎正策) ……	1P
第42回実践研究発表会報告 ……	2~3P
二十歳おめでとうございます ……	4P
welcome!!フィリピンからびわこの仲間たち ……	5P
施設等Topics① ……	6P
施設等Topics② ……	7P
施設等Topics③ ……	8P
施設等Topics④ ……	9P
スタッフhistory③(看護職員編) ……	10P
スタッフhistory④ (勤続25年以上の職員編) ……	11P
ご協力ありがとうございます (R5年8月~R5年11月) ……	12P

## 新年のご挨拶

社会福祉法人びわこ学園理事長 山崎 正策



新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、令和6年の新春を健やかに迎えになられたこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年びわこ学園は創立60年を迎え、新たな門出を迎えることとなりましたが、我々を取り巻く重症児者の支援環境は大きな変化を見せてきています。

それは、施設を入所利用されている方々が重度重症化されている中、新たに入所利用される方が重度重症でしかも低年齢の方が増えてきたことです。いわゆる「超重症児者」と呼ばれる方々で、対応には様々な医療的ケアと重介護が必要な方々です。また、そういう重い障害を持っておられながらも、在宅でご家族と一緒に様々な支援を受けながら生活される方も増えてきました。都会では数年前から在宅生活される医療的ケアの必要な方々が急激に増えてきていましたが、滋賀県でも、在宅生活されておられる超重症児者数は大きく増えてきています。

急激に増えてきた超重症児者への対応を図っていくために、様々な対応策が考えられ、入所施設での受け入れ拡張、短期入所・レスパイト機能の拡大、在宅生活支援のための訪問看護、訪問介護、在宅支援診療所、幼稚園や小学校への通園や通学支援、一般病院小児病棟での超重症児を含む、在宅重症児の治療病棟作り等、現在超重症児者の在宅生活支援サービスは、大きく広がりを見せてきています。

そういう時代に差し掛かり、我々重症心身障害児者施設は、医療機能も福祉機能も持ち合わせてはいますが、今まで通りの事業だけでは先々が心配され、今後どのように事業を進めていくべきか等々を考えようとしてきましたが、大変難しい状況です。

地域、我々の場合は滋賀県ですが、地域の状況を意識しながら、また様々な事業所と連携しながら事業の展開を図っていくことが基本となりますが、なかなか思うようには進みません。加えて最近では、医師、看護師、生活支援員等の職員確保の難しさと相まって、事業の継続についても、不安材料が多く出てきています。

そういう状況の下で、今我々は滋賀県から、医療的ケア児者対応事業所開設促進事業及び重症心身障害児者・医療的ケア児支援センター事業を受託しました。各地域での短期入所事業所の開設と、各地域を対象とした重層的な相談支援体制を作り上げていこうと考えています。

各地域で課題解決に努力されている中、びわこ学園も協力させていただきながら、必要なときにはびわこ学園も利用してもらい、重い障害を持っておられる方々が入所支援も在宅生活支援も両方利用しながら暮らしていける支援の在り方を、時間をかけながらしっかりと各地域とびわこ学園で協議し作り出していく時が来たのではないかと考えています。

皆様方のさらなるご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



社会福祉法人  
びわこ学園

法人事務局  
びわこ学園医療福祉センター草津  
びわこ学園医療福祉センター野洲  
知的障害児者地域生活支援センター  
びわこ学園障害者支援センター  
びわこ学園長浜診療所

TEL 077-587-1144  
TEL 077-566-0701  
TEL 077-587-1144  
TEL 077-527-0494  
TEL 077-585-8040  
TEL 0749-53-2771

〒520-2321 野洲市北桜978-2  
〒525-0072 草津市笠山八丁目3-113  
〒520-2321 野洲市北桜978-2  
〒520-0802 大津市馬場二丁目13-50  
〒524-0014 守山市石田町707  
〒526-0845 長浜市小堀町122番1

# 第42回 びわこ学園実践研究発表会 報告

## 「この子らとともに光り輝く時代に向けて」

令和5年12月16日（土）  
法人事務局 人財育成部長 南方 孝弘

創立60周年の節目を迎えた今年の実践研究発表会は、「この子らを世の光に」という大きな理念を継承しながら、これからの「この子らとともに光り輝く時代に向けて」をテーマに開催しました。今年度もオンラインでの開催となりましたが、北海道から長崎まで全国各地からご参加いただきました。びわこ学園職員、ご家族等を合わせ参加者は252人となりました。

### 講演の部



講演講師 児玉和夫先生

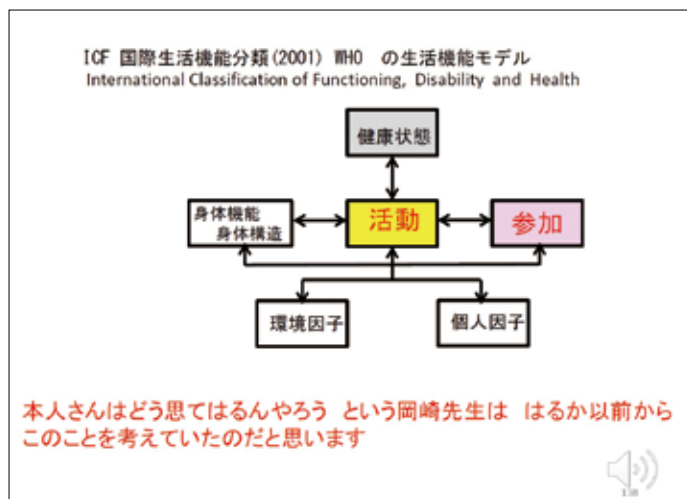
堺市立重症心身障害者（児）支援センター ベルデさかい 名誉センター長であり、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会 理事長の児玉和夫先生にご講演をいただきました。

初めに講演のテーマについてこう話されました。「私は糸賀先生 岡崎先生の足跡をたどることから準備を始めました。しかし、この両先生の切り拓いた地平と今では環境も大きく異なっています。今の状況の中で 両先生の精神はどう生きていくのだろうか。迷うことだらけですが、テーマ

を次々変えながら考えていきたいと思います。」

講演では、びわこ学園の源流である近江学園の誕生から重症心身障害児施設の黎明期について、また施設における入所利用者の変化や大部屋から少人数の居室、多様な生活の場として施設構造の変化（新しい施設の先駆的な紹介も）についてお話いただき、過去、現在に渡る、びわこ学園が歩んできた道のりとも重なるお話でした。

さらに、施設のあり方については「地域在宅か施設かではなく、家庭生活の延長としての施設生活・人生プランの中での施設利用」や「短期入所は、施設の副次的サービスではなく、入所機能と並ぶ施設の不可欠な機能として用意すべきものであること」など具体的な課題について、また最後には「びわこ学園へおねがいたいこと」として児玉先生からの61年目（これから）に向けてエールと宿題をいただいた講演となりました。



## 実践報告の部

報告1は、びわこ学園医療福祉センター草津から「複数機関の短期入所を利用して超・準超重症児者の家族の困難」をテーマに、医療型短期入所やレスパイト入院など複数機関を利用する超・準超重症児者の家族を対象にした、どこに困難さがあるのかを明らかにするため調査を行い、その結果、抽出された5つの課題と今後の取り組みの視点について報告しました。



報告1発表者  
中村ミレイ  
(看護師)

VI. 考察  
制度の違いによる利用システムに戸惑う

- 短期入所の中に二つの制度が潜んでいることから生じている  
レスパイト入院 → 医療法による入院  
医療型短期入所 → 障害者総合支援法による福祉サービス

制度の違いについての情報の提示が必要

機関ごとに違う対応を準備なくされる家族

現状に疑問を持たない職員

それぞれの施設の違いを仕方なく受け入れている

施設、必要のないものを持ってきたり、忘れ物が多いなど

施設間の情報を得る機会が少なく、視野が狭い

家族の目標に立つ、他の施設に目を向けて視野を広げた評価と検討が必要

報告2は、びわこ学園医療福祉センター野洲から「コロナ禍の制限により生活環境に影響を受ける中で、強度行動障害を呈する利用者の本質的な思いや背景にアプローチした取り組み」をテーマに、新型コロナ感染対策による外出の制限等の影響変化による新たに出現したこだわりに対して、言葉にできない要求やストレスの表出と捉え、生活の中で新しい取り組み実践による「生活の軸の立て直し」の大切さについて報告しました。



報告2発表者  
太田友基  
(生活支援員)

V. おわりに

A氏は長年築き上げてきた「外出」という名の特別感で愛されていることを確認しようとする。

環境は感染対策や病棟全体の利用者像の変化で変わっていく。環境を変えずに、伝統的な行事、外出を叶え続けるのは難しい。

A氏の言葉・こだわり行動の本質（真の要求）＝特別感を持続可能な形で根強く保障して生活の軸を立て直すことが大切。

報告3は、びわこ学園障害者支援センター重症心身障害者通所施設「ピアーズ」から「物や人との関わりを通して見られたB氏の変化」をテーマに、感触活動の取り組みとB氏の姿から、設定活動の保障の意味について、一人ひとり違った関わり方を意識的、意図的に行う活動の保障、その人らしい生き生きとした姿や情緒的交流の場の保障、引き出された利用者の姿を職員が理解を共有などについて報告しました。



報告3発表者  
笠松容子  
(生活支援員)

IV. まとめ

設定活動の保障（週に1回以上の活動）

情緒的交流の場の保障（一人ひとりにふさわしい環境設定）

情報の共有 コミュニケーションの場

報告4 知的障害児者地域生活支援センター生活介護事業「さくらはうす」から「行動障害を呈し医療的ケアを要する方の日中支援の提供について」をテーマに、さくらはうすの施設機能（3階：重症心身障害、要医療的ケア中心、4階：重度知的障害、自閉症中心）を活かし、医療的ケアを要するC氏の障害特性にあった支援の提供のため、施設内実習によるアセスメント、モニタリングを行い、支援者間で共有し理解を深め、また本人の姿を通じて家族の理解と協力が図れたことで、より主体的な姿が見られるようになったC氏について報告しました。



報告4発表者  
片岡和久  
(生活支援員)

さくらはうすとして

行動障害を呈し、医療的ケアを要する方への日中支援について

今回のCさんのケースを通して

- ①事業所の強みを活かし、障害特性に合った環境と支援を提供すること  
⇒健康面の安定にもつながる
- ②家族の理解と協力を得ること
- ③支援者間の情報共有と理解(モニタリング・ケース会)

この①～③を軸に支援することで、どんな状況やご本人の変化にも、継続した本人支援ができると思う。

# 二十歳おめでとう ございます ～新たな出発を祝して～

令和6年  
4月1日までに  
二十歳を迎える  
方がた

令和6年4月1日までに二十歳になられる皆様をご紹介させていただきます  
とともに「二十歳おめでとう」を申し上げます。  
今後一層充実した日々を過ごされることを願っています。

びわこ学園  
医療福祉  
センター野洲

知的障害児者  
地域生活支援センター



松枝祐斗さん



毛利拓夢さん  
(ひまわりはうす)



片尾せいらさん  
(さくらはうす)



濱洲克祈さん  
(さくらはうす)

びわこ学園障害者支援センター



森野玲於那さん  
(えがお)



谷 聖菜さん  
(さんさん)



山田昇慧さん  
(さんさん)



藤森明日嘉さん  
(かなえ)

# welcome!! フィリピンからびわこの仲間たち 2024.4

法人事務局 人財育成部 人事・育成課長 松岡 千弥

## 1, 外国人労働者の雇用に向けて

介護人材の枯渇という社会状況の中、びわこ学園においても生活支援部職員の確保は年々困難さを増しています。その対策として、生活支援部の令和5年度計画に外国人労働者を雇用する方針を決め、「特定技能労働」での受け入れ検討を始めました。今回の候補国は、タイ、ネパール、インドネシア、フィリピンの4か国でした。そして、こちらの受け入れ時期と送り出し機関との調整ができた国がフィリピンでした。

受け入れにあたっては、4社の支援機関からの説明に加え、実際に導入されている法人から情報を収集し、選定委員会により支援機関を決定し、手続きを始めることになりました。

初めての受け入れにあたって、10月16日に医療福祉センター野洲の西田生活支援部長とフィリピンへ行って参りました。



## 2, フィリピン視察を終えて

日本語学校で学ぶ学生さんは、日本の介護技術に憧れ、日本に来て学ぶことの価値が評価されています。介護職として働きたいとの思いがあふれていました。

現地の空気を体感して、街の様子や応募者に対面することができたことは、今後の丁寧な受け入れを準備するにあたって有意義な時間となりました。

今回の採用試験に12名の応募があり、3名が採用となりました。今春、センター野洲の生活支援員として着任が決まりました。

応募者の熱心な姿や誠実な思いを感じることができ、外国人材を利用者支援の仲間として迎え入れること、異文化の理解の課題はありますが、改めて私たち自身の「コミュニケーション力」を磨くチャンスに変えて取り組んでいきたいと思いました。



Topics①

# 「60周年ありがとう！そしてこれからも～未来へ～」 ～びわこ学園医療福祉センター草津・秋祭り～

びわこ学園医療福祉センター草津・第1病棟 生活支援員 高田 涼華

今年はいよいよコロナ前のような形で、制限なく秋祭りを開催することができました。テーマは、びわこ学園の創立60周年にちなみ「60周年ありがとう！そしてこれからも～未来へ～」テーマ曲は、槇原敬之さんの「手をつなごう」。アートパネルは、利用者さんの手形・足形で琵琶湖を囲むデザインで作成し、オープニングで代表の利用者さんと共に披露しました。パネルは、施設内廊下に設置しています。

また、利用者さんの懐かしい写真も廊下に展示しました。



みんなで作ったアートパネル

前日まで天候を心配していま

したが、当日はさわやかな秋晴れとなりました。

午前のステージは、「キラリ☆ウィンドポップス」さんによる演奏。25名編成の迫力のある吹奏楽の音や美しいメロディに、聴き入っておられる利用者さん参加者の皆さんの姿が見られました。

午後のステージは「みみすまバンド」さんによる演奏。「ピンクレディメドレー」ではノリノリで踊る職員とコラボしてくださったたり、曲の中で利用者さんの名前を呼んでくださったりと、大変盛り上がりしました。



「キラリ☆ウィンドポップス」さんの迫力ある演奏♪



「みみすまバンド」さんとのコラボ

エンディングは、創立60周年企画として、現職員・旧職員で編成したバンドで、びわこ学園で歌い継がれてきた曲を歌い、一つ一つの曲に込められた思いを振り返りました。

模擬店の出店は「めぶき福祉会さくら」さん、「まちかどプロジェクト」さん、「パナソニックアプライアンスユニオンくらしアプライアンス支部」さんにご協力いただきました。また、「びわこ学園後援会」やセンター

草津の「あらいぐま本舗」、デザートのカッキーやムースの模擬店も復活し、にぎわいました。

利用者さんが綿菓子やクッキーを口にされ笑顔になる姿、ゲームコーナーで景品をゲットして嬉しそうな姿など、生き生きとした表情が多く見られていました。

病棟内では、ステージのオンライン配信やスヌーズレンコーナーを実施。昼食は、「北見塩焼きそば、たこ焼き、さつまいもポタージュ」と一日を通してお祭り気分を楽しんでいただけたのではないかと思います。

今年はお家族やボランティアさんともに、利用者さんとの時間をゆっくり楽しんでいただきました。利用者さんはお家族やたくさんの方々との触れ合いを感じておられるようでした。そしてボランティアさんとの久々の再会に笑顔になる利用者さんの姿もありました。

最後になりましたが、今年も「南笠東学区社会福祉協議会様」「パナソニックアプライアンスユニオンくらしアプライアンス支部様」より、日々の過ごしの中で楽しめる品々を寄贈していただきました。毎年ご協力いただきますこと、心より感謝申し上げます。参加してくださったご家族、ボランティアの皆様、多くの方々のおかげで楽しい時間を作り上げ、共にすることができました。本当にありがとうございました。



「ヨーヨー釣り」何が釣れるかなあ

## 「情熱とともに行事の継承」 ～びわこ学園医療福祉センター野洲 学園祭～

びわこ学園医療福祉センター野洲 第2病棟 生活支援員 伊吹 透



「情熱」と描いた熱気球

10月22日、今年も学園祭が開催されました。今年度の学園祭は円形広場にて各棟のステージ発表や、キッチンカーを利用した模擬店も実施する運びとなり、ご家族やボランティアの方の大きな制限もなく大変賑わいました。

各棟が一堂に会する学園祭は2019年以来です。（第1病棟の皆様は棟内で中継での参加となりましたが）。2019年以降、3年間はコロナウイルスの世界的な蔓延が顕著となり、びわこ学園でも感染対策のため、規模を縮小せざるを得ませんでした。その間、職員の創意工夫の下、各棟でお祭りの催しを実施してきました。2023年によく利用者が知る学園祭を開催できました。こういった規模の学園祭を初めて経験する利用者様、職員もいっちゃったことでしょう。

利用者様のステージ発表では第3病棟利用者様の歌に始まりました。途中気持ちが崩れ泣いてしまわれる利用者様もいらっしゃいましたが、ご自分の番になるとしっかりと歌声を届けていました。第2病棟利用者様のステージは大きなかぶの演劇をアニメのサザエさん風と題して演じていました。何度か経験していることもあり、かぶを引っ張る列を順番に作り、最後まで演じ大きなかぶを収穫することができました。その後は学園祭のテーマとなった情熱と題した熱気球を膨らませ、円形広場をまわりました。

また、今年びわこ学園創設60周年というタイミングも重なりました。熱気球は午後に第1病棟の中庭に設置され、そこで第1病棟の利用者様は写真を撮るなど棟内でも楽しめるように工夫をしました。模擬店では各ブースにて地元のお店のご協力を得て実施となりました。たくさんの方が利用され、見事に完売となりました。マッサージのブース、販売のブースなどもあり、和やかな空気に包まれていました。また、旧知の職員さんとの会話も弾み、利用者様の笑顔や、楽しんでいる様子も伺えました。



HAMORI-BEさん

午後よりHAMORI-BEさんのコンサートが爽やかな日差しの中開催されました。馴染みのある童謡のメロディーが流れると共に口ずさむ利用者様の姿や、ニコニコと笑顔で聞いたり、身体を揺らして聞いたりなど様々な姿がありました。円形広場に来ることが出来なかった利用者様には工夫を凝らし、各棟でライブ中継を放送し、歌声を届けるようにしました。終了後は感謝の気持ちを込めて、利用者様から花束、第2病棟の活動にて利用者様が作りあげたろうそくを加工したものをプレゼントしました。

また、HAMORI-BEさんとその関係者の方に利用者様から歌のプレゼントもしました。最後までしっかりと歌い上げると自然と会場から拍手が起こり、和やかな雰囲気にも包まれ終わりを迎えました。全棟が揃うことは叶いませんでしたが、午前、午後と有意義な時間を創意工夫のもと作ることができ、本当に良かったと思います。最後に夏祭り、学園祭のために協力して頂いたボランティアの皆様、地元のお店の皆様、HAMORI-BEの皆様、職員の皆さんに感謝申し上げます。また、ご家族様にはこの3年間ご不便をおかけしましたが、ご理解とご協力を賜りありがとうございました。そして、楽しみに待って頂いた利用者の皆様、絵を描いて頂いた利用者様、ステージに参加して頂いた利用者様、思いおもいに参加して頂いた利用者様、ありがとうございました。皆様それぞれの情熱が今年の学園祭を大いに盛り上げ、最高の思い出になったのであれば幸いです。



コンサート中の様子

## 「でかけたよ♪であえたよ♪」 ～さくらはうす・外出の再開～

知的障害児者地域生活支援センター・さくらはうす 生活支援員 椿原左知子・片岡 和久



音楽療法士の音楽、元職員との再会

今年度、新型コロナウイルスの流行により、一旦中止していた外出の取り組みを4年ぶりに再開させました。

3階フロアーの利用者は、toa-Toaの音楽療法士によるミニコンサートや浜大津アーカスにボウリングを楽しみに出かけました。

ミニコンサートでは、音楽療法士によるピアノやアルトサクソフーンの演奏や職員も参加しトーンチャイムでの合奏などがありました。トクエストした演歌を歌い楽しむ利用者や今まで見たことのない光るタンバリンに興味津々になった利用者、自分にとって心地よい距離感で演奏を聴いている利用者などそれぞれの音楽を楽しむことができました。また、ミニコンサートをセ

ンター草津の敷地内にある『みなも』で行ったので、センター草津で勤務している元さくらはうすの職員たちと久々の再会を果たすこともできました。

ボウリング外出は、いつもの活動とは違いボウリング会場にかかるBGMやボールとピンが重なる音のにぎやかさにびっくりする利用者、投球フォームやピンに向かうボールが見られるモニターに目を奪われる利用者もおられました。でも、ゲームが始まるとボウリングに集中!! 活動で行っているよりも多く投げる機会があったのですが、みなさん最後まで夢中になってボールを投げられました。

4階フロアーの利用者は散歩をしてからお弁当を頂く流れ



緑の中を気持ちよく散歩

です。日頃行っているドライブ活動の力を活かして「びわこ文化公園」や「守山地球市民の森」等、緑いっぱいの中を歩いて体を動かしました。背負ったリュックの中には水筒や着替えなどが入っていていつもより重いのですが、それが“いつもと違うぞ。”“今日は特別な日だ。”という気持ちにさせてくれるような気がします。

(外出日の朝、お母さんたちが笑顔で「今日はリュックが重いです。」と言って職員にリュックを手渡されることも特別です。)

歩いて体を動かした後のお弁当。皆さん美味しそうに召し上がっておられました。「とんかつたべたな。おい

しかったな。」と外出が過ぎても嬉しそうに話をされる方もおられます。外出の帰り道。ちょっと寄り道をして自動販売機でジュースを買ったり、元職員が経営する揚げパン屋さんでおやつを買ったり、何気ない幸せを感じる機会でした。

下半期も、まだ外出に行かれていない利用者らが公園や美術館などに出かけられる予定です。コロナ感染予防のため出かけられなかった分、待ちに待った外出です。これからも「日々、利用者が活動などで発揮している力を日常とは違う場所、機会を設けて確かめる、楽しむ機会となるように」一歩ずつ進めていこうと考えています。



ストライクの思いを込めて



元職員の揚げパン屋で買い物



Topics④

# 「1人ひとりの表現を大切にした支援」 ～絵画を通して社会と繋がる～

びわこ学園障害者支援センター・さんさん 生活支援員 角野 里奈



さんさんでは、8年前から「え」活動として絵画活動に取り組んでいます。

現在は6名の利用者さんが週に二回。ゆったりとした時間が流れる中で1人ひとりの個性に合わせ、好きなことや得意なことを活かし、絵画に表現されています。

今回、野洲図書館での展覧会は2回目の開催となります。布や不織布に絵の具やマッキー、ペン等で思いのまま自由に表現された17点の作品を展示しました。

来場者からも「色使いが個性的でおもしろい」、「情熱を持って描かれていて絵を描きたい気持ちになった」、「年齢や障害など関係なく絵を描く事、物を作る事は自由だという事を考えさせてもらいました」などのお言葉を頂き、私たちの今後の活力となっています。そして何より、たくさんの方々にご来場頂き、

利用者さん、職員共々大変嬉しく思っています。

言葉でコミュニケーションをとる事が難しくても、アートを通して生まれるコミュニケーションって素敵だな…と実感しています。

「え」活動の中で、「本人の好きなこと・得意なこと」に視点を当てた支援を大切にし、本人の可能性や秘めている力をいかに発揮できるかを考え、これからも「自分らしさ」を「え」活動で表現して欲しいと願っています。



みんなの自分らしさが  
沢山の人の  
届きますように…



職員History③ ～看護師編～

前号に続き、ここでは看護師4名の皆さんに綴っていただきました。



5年ほど急性期の病院で働いていましたが仕事と自分の時間との両立が難しく、違う分野で働きたいと思いびわこ学園に入職しました。

現在11年目になりますが、始めの5年間は第1病棟で重症度の高い利用者さんの看護を、その後5年間第2病棟で様々な発達年齢の方と関わらせていただきました。

びわこ学園で働きだした当初より多職種との相談や連携が気軽にできるため、とても働きやすい環境だと思っています。

これからも利用者さんやご家族の方に寄り添える看護を提供できるよう精進していきますので、よろしくお願いします。

(高岡 岳人・看護師11年目)  
びわこ学園医療福祉センター草津



びわこ学園に入職して10年が経ちました。学園に入職するまで10年程、病院で働いていましたが、入職当初は病院との違いに戸惑い、重心看護の難しさに悩むことが多くありました。そんな時、先輩看護師や生活支援員から、利用者の障害特性や上手く意思疎通できない利用者のケア、日々の関わりのポイントなどを学び、少しずつ重心看護に活かせるようになりました。

びわこ学園は病院機能をもった福祉施設です。10年前に比べると利用者は高齢化しており、医療度が上がっています。まだまだ未熟な私ですが、病院とは違う「生活の中の看護」を高いレベルで提供できるよう多職種で協力するとともに、自己研鑽もしていきたいと思っています。

びわこ学園は病院機能をもった福祉施設です。10年前に比べると利用者は高齢化しており、医療度が上がっています。まだまだ未熟な私ですが、病院とは違う「生活の中の看護」を高いレベルで提供できるよう多職種で協力するとともに、自己研鑽もしていきたいと思っています。

(橋口佐一郎・看護師11年目・看護係長)  
びわこ学園医療福祉センター野洲



「ちょこれーと。」に出会ってもう10年。「『ちょこれーと。』のおだにです」がとっても馴染んできました。

利用者さん、ご家族、スタッフに支えられ、いつの間にか訪問看護の魅力にどっぷりつかっていました。ご家族と一緒に利用者さんの成長・発達を見守らせていただけ、スタッフや関係機関の皆さんと共有・喜び合えることが、力の源になっています。

「利用者さんはどう思っているんやろ」原点がぶれないように、いつも立ち返りながら、利用者さん主体のケアを追求し、多職種チームで生活をサポートしていきたいです。

そして「いつもありがとうございます」を言葉に、感謝の気持ちを忘れずに、一つずついい毎日の関わりを大切にしていきたいです。

(小谷 英子・看護師11年目・看護係長)  
びわこ学園障害者支援センター  
・訪問看護ステーションちょこれーと。



はじめて福祉の世界に来て右も左もわからず緊張しているときに、助けてくれたのは利用者様でした。

「ぶっち、ぶっちー。」と呼んで下さる利用者様のおかげで「えがお」の仲間入りをさせていただけました。

日々、いろんなことの見方や考え方が変わったり気付かされたりすることは多く、利用者様が、スタッフの皆様が先生となり勉強させていただいております。

入職時に、「新しい10年の始まりです」と書いたのですが、半分経ちました。50歳を過ぎ白髪も増えましたが、気持ちはずっと新人です。まだまだ勉強は足りていません。

これからも湖北の利用者様といろんなことを知りながら過ごさせていただけたらと思っています。

(粕淵由美子・看護師6年目)  
びわこ学園障害者支援センター  
・重症心身障害者通所施設えがお

職員History④ ～勤続25年を超えた職員編（令和5年度 岡崎賞受賞職員）～

びわこ学園では勤続25年を迎えた職員に対し、永年勤続賞としてびわこ学園の発展に生涯をかけ尽力された初代園長岡崎英彦先生の遺徳を記念した「岡崎賞」を贈呈しています。

ここでは、本年度岡崎賞を受賞した職員の投稿をお届けします。



私は忘れられないことがあります。新人研修が終わり、病棟に入り2日目の事です。夕食介助後、利用者さんが笑顔で何かを、何度も仰っているのですが、全く聞き取れませんでした。先輩職員に声をかけ、一緒に聞き取ってもらうと「気を付けて帰って下さいよー」との言葉でした。

初めての病棟に緊張しまくっていた事、下手くそな介助に付き合ってもらった事、なのにそのような気遣いを頂いた事、聞き取れない私に諦めずしかも笑顔で何度も伝えて下さった事などなど、申し訳なさがあふれ、同時にその利用者さんの光のような優しい言葉に救われました。

利用者さんのここでの暮らしが少しでも光輝くものであるように。あの時利用者さんからもらった言葉のように、いつか私も、利用者さんにちいさくても光を届けることができるように、これからも支援していきたいと思います。

(吉田かおり・生活支援課長・26年目)  
びわこ学園医療福祉センター草津



その昔、通所に異動したばかりの私と、まだ知り合って間もない利用者ボランティアさんと3人で、全障研（全国障害者問題研究会）の北海道大会に行っていたことがあります。

旅の初日、北海道に無事に着いたとホッとしたものの体的にはしんどかったのでしょうか、外食する気力は残っておらず1日目の夕飯はカップラーメン（！）になってしまいました。

翌日は全障研で発表をし、滋賀に帰って来た時の満足そうな笑顔を見た時に、大変だったけど行って良かったと思えました。見知らぬ者同士で「全障研で発表するため北海道へ行く」と決断した彼女は、チャレンジャーだと当時思いましたが、それだけ強く願っていたという事です。「やりたいことをする」という当たり前の願いが誰しもあり、それを言葉にできない利用者さんもおられます。そんな利用者さんの願いや思いを自分はどれだけ汲み取れているのかな…、と思いながら今もこの仕事をしています。

今の目標は、利用者も、一緒に支援する職員も、「楽しい・心地良い」と感じられる活動のお手伝いをすることです。

(中能かおり・生活支援員・26年目・活動担当)  
びわこ学園医療福祉センター草津



この度はこのような賞をいただき、本当にありがとうございます。あっという間の25年、いつの間にか時間が経っていたというのが本当のところでは。

この25年、多くのことを経験し、学ぶことができました。時には笑い、時には悩みながら過ごしてきたことが今の自分の糧となっています。

多くの人達に支えられ、ここまでやってこれたことに感謝します。今後も自分自身を磨きながら、小さな実績を積み上げていければと考えています。

本当にありがとうございました。

(小林 晃・ヘルパー・26年目・サービス提供責任者)  
びわこ学園障害者支援センター  
・ヘルプステーションちょこれーと。



# ご協力ありがとうございます (令和5年8月～令和5年11月)

(敬称略)

皆様の心温まるご支援に感謝いたします。

## 寄付金

(寄付金についてはいただいた方の御名前または団体名のみご報告させていただきます。)

### 法人

今宿 功/白石 剛/内田克己

### びわこ学園医療福祉センター野洲

山崎正策

## 物品の寄付

### びわこ学園医療福祉センター草津

食品…全国重症心身障害児(者)を守る会熊本県支部/  
社会福祉法人草津市社会福祉協議会

その他…パナソニックアプライアンスユニオンくらしアプライアンス支部/  
南笠東学区社会福祉協議会 会長 清水和廣/外山妙子/阿部征児/  
東京おもちゃ美術館×日本財団

### びわこ学園医療福祉センター野洲

日用品…野洲更生保護女性会

食品…加藤 博/林 照代

その他…辰市由香

### びわこ学園障害者支援センター

その他…株式会社びわこ運送/株式会社京都銀行

## ボランティアのみなさん

### びわこ学園医療福祉センター草津

山科たんぽぽ/天理教江西支部/すすらん/尾浦与子/御子芝貴美子/  
宇野郁子/華頂看護専門学校看護学生/BushCloer玉川/  
パナソニックアプライアンスユニオンくらしアプライアンス支部/  
キラリ☆ウィンドポップス/みみすまバンド/ニコラズ/  
アロマエンジェル/坂口博昭/田中智子/向吉昌代/前田五月/西尾悦子/  
奥田多恵/西川千晴/加藤美由紀/三宅美恵子/田辺久子/西浦正一/  
中路友未/加藤常満/勝島三男/勝島百合子/石田登美子/近松清司/  
中村勝彦/池田はるか/松永朋子/青井有里/舟木篤栄/坂田大河/  
増野良子/元井芳嗣/香川典代/前田佐知/佐々木燈/呉 千尋/中富恵子

### びわこ学園医療福祉センター野洲

近江金田教会/K-クラブ/更生保護女性会/天理教婦人会/さえずり/  
together/ニレトミ会/野洲赤十字奉仕団/レイカ野洲/  
レイカディア大学園芸科43期/レイカディア大学園芸科44期/  
レイカディア大学園芸科OB/大津友の会/オムロン野洲事業所/  
秋末文孝/安藤真紀/磯 春樹/今里哲也/上田順子/田中規久子/  
林 政子/細川久子/加藤常満/川端しづ子/左部真千恵/辰市由佳/  
東郷 勇/中富恵子/藤山庸子/堀田千景/森 紳司/阪本博史/  
元木恭子/元木隆治/木村真由美/樋口世治/朝雛隆正/  
YBCスポーツ少年団/吉田結菜/西出美沙紀/岡林 努/伊藤明日香/  
横山ひかり/秋末道子/田中和子/水津さゆり/矢田淳子/貫井梨英

### びわこ学園障害者支援センター

笠縫東学区更生保護女性会 卯田美千代/  
石田自治会・ななまがり 今野弘子/湖友会 竹端末浩/  
Ka Papa Hula Lei Pua 大前雅美/竹楽の杜クラブ 今江、鳥毛

## その他の協力団体

### びわこ学園後援会

びわこ学園事業や両医療福祉センターイベントへの出店・助成、環境整備活動

### びわこ学園家族の会

創立60周年記念品用備品(びわこ学園医療福祉センター草津・野洲・法人へ計10点)

## 【ご寄附贈呈式報告】

### びわこ学園医療福祉センター草津

2023年10月15日に開催した秋祭りで贈呈いただきました。



パナソニック  
アプライアンスユニオン  
くらしアプライアンス支部様



南笠東学区社会福祉協議会  
会長 清水和廣 様

### びわこ学園障害者支援センター

2023年10月27日贈呈いただきました。



(株)びわこ運送様・(株)京都銀行様



ご寄贈いただいた物品を活用しての日中活動を見学いただきました。

### びわこ学園医療福祉センター草津・野洲

2023年10月21日贈呈いただきました。



びわこ学園家族の会様